

健康と幸せの絶妙なバランスの教え

スポーツと健康コース長 村川治彦

三浦敏弘先生のご退職にあたり、長年の先生のご尽力とご貢献にスポーツと健康コースを代表して心より感謝の言葉を述べさせていただきます。

人間健康学部は2004年文学部に新たに設けられた身体運動文化専修とインターディパートメント専修を母体に、2010年堺の地に開設されました。スポーツと福祉とユーモアを柱に「健康学」を学ぶ学部として、人間の健康（health）と健幸（well-being）を追究する領域は多岐にわたります。ことスポーツに関しても、他大学で同じ時期に開設されたスポーツ系学部がいわゆる自然科学的アプローチの研究を看板に掲げるなかで、本学部のスポーツと健康コースは、「スポーツ文化を総合科学的な視点で学ぶ」というひと味違った方向性を掲げ、学部発足から多くの学生を惹きつけてきました。

しかし、この「総合科学的な視点」は諸刃の剣で、人間健康学部に参加した私たち教員は、それぞれの専門分野についての見識はあるものの、それらを結びつけ融合させることは至難の業でした。そうしたなかで三浦先生は、前職の明治鍼灸大学で東洋と西洋の視点から医学的研究に取り組み、また生涯学習という視点からスポーツを地域社会に結びつけるという当時ではまだ注目されていなかった領域を開拓されていました。1997年に関大に着任されてからは、障害者スポーツ支援や野外教育としての自然活動、ダンスやトレーニングといったスポーツの幅広い領域に取り組み、2004年に文学部にスポーツ研究の新たな専修を設ける際に付けられた「身体運動文化」という名称も、先生のご提案によるものだとお聞きしています。

新学部となってからも、先生が「学生を中心とした医療・保健・福祉分野における継続的な地域貢献活動」という方向性を示してくださったおかげで、私たちは地域社会におけるスポーツを軸に多様な研究領域を結びつけることができ、さらには他の大学ではなかなか実現されていないスポーツと福祉の連携を推進することができました。また、もう一つの柱であるユーモアについても、先生は研究対象としてではなくお人柄として身をもってご教示くださり、柔道で培われたその柔軟な駆け引きの技とともに、人間健康学部が健康と幸せの絶妙なバランスを取りながら一体となって進む大きな力を与えてくださいました。

私は2008年に文学部に着任した時から先生と一緒させて頂き、様々なご指導や励ましを頂いてきました。本誌「三浦敏弘教授退職記念号」に掲載されている「地域連携を軸とした新たな環境教育プログラムの構築に向けて」は、同じく三浦先生の訇咳に接してきた安田忠典教授、森仁志教授と私が先生のお導きを引き継ぐものであり、先生のご退職に寄せて感謝の気持ちとともに、捧げたいと思います。

三浦先生、四半世紀にわたる関西大学へのご貢献、また私たち人間健康学部教員へのご指導、ご鞭撻本当にありがとうございました。

